山形大学
Yamagata University

2018年12月22日（土）
13:00〜17:30

山形大学小白川キャンパス
人文社会科学部1号館205教室

〒990-8560
山形市小白川町1-4-12
TEL 023-628-4294

※ 事前申込不要・参加無料
※ どなたでも自由にご来聴いただけます

シンポジウム

大正・昭和期における東北の写真文化

大正から昭和前半期にかけて、日本の写真文化は多様な変化を遂げました。それまでもっぱら記録として撮影されることの多かった写真に対し、絵画的表現や前衛性を求める芸術写真、社会的事件や戦況を伝える報道写真、世の中の実相に目を向けるリアリズム写真など、新たな技法と理念が次々に提唱されました。こうして写真の可能性に広がりが生まれる一方、そのような中央の目まぐるしい写真界の動きに対し、東北の写真家や写真団体がどのような反応を見せ、全体としてどのような地方色を打ち出すに至ったのかについては、これまで必ずしも明らかにされてきませんでした。

このシンポジウムでは、従来、共同研究されることの少なかった大正・昭和期の東北６県の写真文化を対象に、各県の地域性をあらわにする写真の実例と特徴ある作家および団体の活動を検証します。具体的には、東北の美術館・博物館で、地元の写真史にまつわる調査や展覧会企画に携わった経験のある学芸員の方々を各県から一名ずつお招きし、知られざる写真家の活動や研究の現状について報告していただきます。これらの議論を通し、各県の風土に根差した豊かな写真文化の一端が明らかになるでしょう。最終的に、それぞれが県境を跨いてどのようにつながりあっていたのか、あるいは中央の新たな芸術運動に対してどのような地方意識を有していたのかを検討することで、この時代の写真に通底する「東北的なるもの」を探ってまいります。

プログラム

【第一部】(13:00〜)

- 高橋 しげみ（青森県立美術館 美術企画課学芸主幹）
  「戦後開拓写真と東北」
- 平澤 広（萬鉄五郎記念美術館 学芸員）
  「岩手の写真芸術事情」
- 山本 丈志（秋田県観光文化スポーツ部文化振興課　副主幹）
  「秋田の近代写真
  小西正太郎、石田喜一郎、千葉禎介について」

【第二部】(14:55〜)

- 三上 満良（宮城県美術館 副館長）
  「宮城県の写真史－大正〜昭和前期の動向」
- 岡部 信幸（山形美術館 副館長兼学芸課長）
  「細江英公『鎌鼬』と東北」
- 堀 宜雄（福島県立美術館 学芸員）
  「アートクラブから二葉会へ
  福島の写真団体形成と世代交代」

【パネルディスカッション】(16:45〜)

- 司会：石澤 靖典（山形大学学術研究院人文社会化学部担当）

主催：山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所
〒990-8560　山形市小白川町1-4-12　山形大学人文社会科学部1号館
問い合わせ：石澤研究室 TEL 023-628-4294｜E-Mail:ishizys@human.kj.yamagata-u.ac.jp｜http://www-hs.yamagata-u.ac.jp
科学研究費学術研究助成基金助成金・基盤研究（B）「東北における写真文化の形成過程と視覚資料の調査研究」（研究代表者：森岡卓司・課題番号：16H03364）

シンポジウム

大正・昭和期における東北の写真文化

日時：2018年12月22日（土）13：00～17：30
場所：山形大学小白川キャンパス人文社会科学部1号館205教室

パネリストの略歴（発表順）

「戦後開拓写真と東北」

高橋 しげみ（青森県立美術館 美術企画課学芸主幹）

弘前大学大学院人文科学研究科修了。青森県立美術館で戦後美術、写真などを担当。2009年、青森市出身の写真家・小島一郎の回顧展「小島一郎 －北を撮る－」を企画。カタログとなった『小島一郎写真集成』（インスクリプト）で第21回「写真の会賞」受賞。2013年の「種差 －よみがえれ 浜の記憶」展でカタログ掲載論文が美連協カタログ優秀論文賞。2016年に企画した「生誕80周年　澤田教一：故郷と戦場」展で、公式写真集『澤田教一　故郷と戦場』（羽鳥書店）が第58回全国カタログ展で文部科学大臣賞受賞。2017年日本写真協会学芸賞受賞。

「岩手の写真芸術事情」

平澤 広（萬鉄五郎記念美術館 学芸員）

1959年岩手県生まれ。1986年萬鉄五郎記念美術館に勤務、同館学芸員。以来、150以上の企画展を手がける。代表的な展覧会に「萬鉄五郎多面体展」≪1994年読売新聞紙上で年間優秀展覧会ベスト5に選出≫、「岩手近代洋画100年展」、「熊谷守一展」、「絵で読む宮沢賢治展」、「棟方志功 萬鉄五郎に首ったけ展」≪2015年美連協・奨励賞受賞≫、昨年全国巡回した「没後90年 萬鉄五郎展」がある。共書に『萬鉄五郎 鉄人アバンギャルド』（二玄社）、『萬鉄五郎書簡集』（萬鉄五郎記念美術館）。写真関連の展覧会としては、2011年「写真家 菊池俊吉が捉えた昭和展」、2012年「写真家 及川修次＝岩手風土記展」、2016年「光の詩人 内村晧一展」を開催し岩手出身の写真家を検証。

「秋田の近代写真　小西正太郎、石田喜一郎、千葉禎介について」

山本 丈志（秋田県観光文化スポーツ部文化振興課 副主幹）

秋田大学教育学部卒業。秋田県立花輪高等学校教諭、秋田県立近代美術館学芸員を経て現職。企画担当した主要展覧会は「ファインダーの中の巴里　洋画家小西正太郎のもう一つの真実」展（1998年）、「融合する東西の美意識 東北の洋風画」展（1999年）、「没後七〇年平福百穂展」（2003年）、「描かれた秋田」展（2007年・千葉禎介作品を掲載）など。主に秋田県の近世近代の作家対象に調査研究。明治大正期の洋画家小西正太郎が残した写真を調べて以来、秋田県の近代写真について調査をするようになった。

「宮城県の写真史－大正～昭和前期の動向」

三上 満良（宮城県美術館 副館長）

早稲田大学第一文学部美術史学専攻卒。1981年に宮城県美術館建設準備室の学芸員となり、開館以降現在まで同館に勤務。主に彫刻、映像分野を担当。「みちのくの造形」「東北の形象」「前衛のみやぎ」「戦後写真と東北（1, 2）」など東北の風土をテーマにした展覧会や、棟方志功、佐藤忠良、昆野恆、針生一郎など地域ゆかりの作家、美術評論家の回顧展を企画。「戦後写真と東北」展では、小島一郎、千葉禎介の作品を特集展示し、再評価につなげた。

「細江英公『鎌鼬』と東北」

岡部 信幸（山形美術館 副館長兼学芸課長）

山形大学人文学専攻科修了。齋藤茂吉記念館を経て、1993年より山形美術館勤務。主要企画展に「細江英公の写真 1950-2000」（2000年）、「牛腸茂雄1946-1983」（2004年）、「パリ―ニューヨーク　20世紀絵画の流れ」（2008年）、「太田三郎―日々」（2008年）、「ロシアの夢1917-1937」（2010年）、「鬼海弘雄写真展―PERSONA」（2011年）、「小池隆英―絵画であること」（2013年）、「場所と記憶　永岡大輔x千葉奈穂子」（2016年）など。「太田三郎―日々」で美連協奨励賞を受賞。

「アートクラブから二葉会へ　福島の写真団体形成と世代交代」

堀 宜雄（福島県立美術館 学芸員）

早稲田大学文学研究科美術史学修士課程修了。1910-30年代を中心に日本近代美術を研究。写真関連としては、『光のノスタルヂア-小関庄太郎と日本の芸術写真』（2001年）、『名取洋之助と日本工房展』（2006年）を自主企画し、東京都写真美術館『芸術写真の精華』展（2011年）ではカタログ執筆、シンポジウムパネラーを務める。近年の展覧会では、2018年長谷川利行展、2019年関根正二展（予定）を企画担当。著書に『名取洋之助と日本工房 1931-45』（白山眞理氏と共著、岩波書店、2006年）がある。『山内神斧日記』（国書刊行会）を2019年刊行予定。

[お問い合わせ] 石澤研究室 TEL 023-628-4294 | E-Mail:ishizys@human.kj.yamagata-u.ac.jp
[主催] 山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所

山形大学 Yamagata University